

# 海の京都 舟屋の町並みにおける 新たなモビリティの実証運行

～グリーンスローモビリティの可能性～

京都府建設交通部交通政策課

## 背景と目的

京都府伊根町(人口、2,104人、915世帯/平成31年2月1日現在)の伊根浦地区は約230軒の舟屋が立地し、観光入込み客数約30万人の観光地であるが、自家用車や路線バス、歩行者等が狭い道路上に混在しており、また、バスの運転手不足が問題となる中、地域の移動需要に対応した住民主体の新たなモビリティの構築が求められている。こうした課題を受け、グリーンスローモビリティが地域の新たなモビリティとなり得るかを検証するため実証運行を行った。

## グリーンスローモビリティ(GSM)とは

- ①Green・・・二酸化炭素排出量が少なく、環境に優しい。
- ②Slow・・・時速20km未満なので風景を楽しめる。
- ③Safety・・・低速で、運転者、歩行者にも安全。
- ④Small・・・小型なので狭い道でも走行可能。
- ⑤Open・・・窓がなく、開放感が心地よい。

既存の住環境・景観・安全を損ねることなく、移動手段の確保や観光活性化を目指す。



## プロジェクト内容

### 実施概要

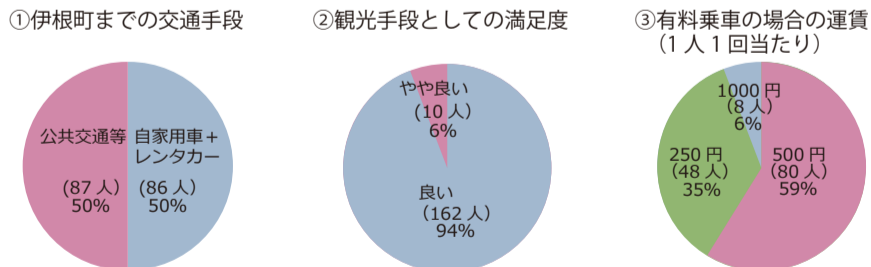
1. 運行期間 平成29年7月22日(土)～8月20日(30日間)
2. 運行主体 一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社伊根地域本部(伊根町観光協会)
3. 運行経路



4. 使用車両 ヤマハモーターパワープロダクツ(株)GSM(4人乗り) 2台
5. 運行方法 定時定路線運行  
(10時30分発～14時30分発まで30分～60分毎に2台で交互に運行)  
(1日7往復運行・昼休憩時間は1台のみの運行)
6. 運賃 無料

### 実施結果

1. 利用人数 572人  
※うち、外国人利用77人
2. アンケートの結果(回答数173)



3. 主な自由意見  
風が気持ち良く快適、ゆっくりと町並みが見れてよかった  
スピードが安心、子供連れに最適、乗降場所の追加

### 実施概要

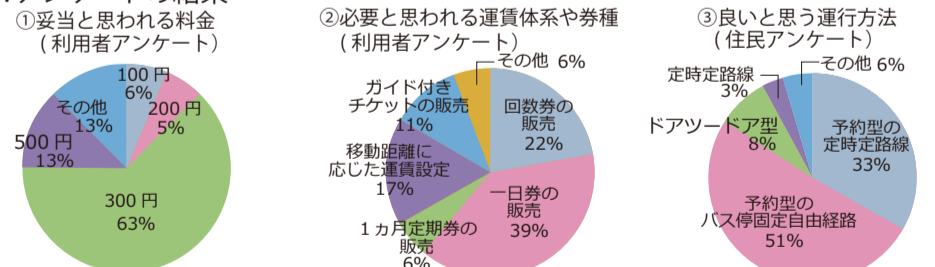
1. 運行期間 平成30年11月1日(木)～11月30日(金)
2. 運行主体 一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社伊根地域本部(伊根町観光協会)
3. 運行経路



4. 使用車両 ヤマハモーターパワープロダクツ(株)GSM(4人乗り、6人乗り各1台)
5. 運行方法 【平日】定時定路線デマンド運行  
(9時30分～16時、予約に応じて7.5往復運行)  
【土日祝日】定時定路線運行  
(10時35分～15時35分、8往復運行)
6. 運賃 500円(地域住民300円 小人200円)

### 実施結果

1. 利用人数 124人 住民24人、住民外100人(うち 外国人24人)  
運賃収入 57,200円
2. アンケートの結果



3. 主な自由意見  
道が狭いことへの解決策として、とても良いと思う  
舟屋の話など、運転手とコミュニケーションをとることができて良かった  
膝掛けが用意されていてありがたかったが、それでも寒かった

## 検証結果

運賃を無料から有料にステップアップする形での実証運行により、有料化に必要な準備や法手続、運行管理体制の構築等に係るノウハウを習得することができ、運賃の有無による利用状況の変化について確認できた。

また、アンケート調査ではGSMについて「低速・小型なので狭い道路上でも歩行者と共存可能」「開放的で静粛性も高いので舟屋景観の散策に最適」等の意見が多く寄せられ、様々な魅力を持つモビリティであることが確認できた。

GSMは低速・小型で高齢者にも運転しやすく、将来的に自動運転化にも対応可能なため、高齢化や運転手不足が深刻な地域においても住民主体で安全な運送サービスの提供が可能と考えられ、また、車両の特性を活かして観光需要を取り込んでの継続的な運行も期待される。

地域住民の継続的な利用のためには、バス等の既存の公共交通車両をそのままGSMに置き換えるのではなく、小型のGSMでないと不可能な狭い道路への乗り入れやドアツードア型の区域運行など、地域のニーズや実情に応じた運行形態のさらなる検討が必要である。